

第4学年音楽科学習指導案

1. 題材名

互いの音をよく聴き合って

教材「明日の空へ」山崎朋子作詞・作曲『山崎朋子 Original songs 同声編』（教育芸術社）

2. 題材の目標

(1) 音楽科としての目標

- 音が重なり合う響きや曲想を感じ取り、聴き合いながら合唱したり合奏したりする。
- パートの役割や他のパートとのかかわりを意識して、音を合わせて演奏する活動を楽しむ。

(2) 汎用的スキル

- 自分とは異なるパートと自分のパートの歌声の響き合いを感じ取り、より美しい調和を目指して歌い方を工夫できる。**(感性・表現・創造の力)**
- 自分自身の声の出し方や響きを振り返り、異なるパートとの調和に必要な声の出し方について考えることができる。**(メタ認知力)**

(3) 態度・価値

- 仲間と声を合わせて一つの楽曲を演奏する楽しさを感じながら取り組む。**(協力し合う心)**
- 自分や仲間の課題を見つめなおし、より良い歌い方を目指して考えたり工夫したりする。**(向上心)**

3. 児童の実態

今年度から受け持った学年である。一人ひとりが響きのあるのびやかな歌声で歌うことが出来る力を育むために、毎回の授業の中で一人ずつ裏声を使って返事をしたり、短いフレーズを一人ずつ歌ったり、少人数で音を重ねたりする活動を継続して続けてきた。また、口の形や顔の表情・姿勢など、体の使い方を意識させたり、歌声としゃべり声の出し方の違いを考えさせたりする活動を通して、声を重ねて歌うために必要な声づくりを積み重ねてきた。響きのあるのびやかな明るい声で歌うことで、声を重ねて歌う時に、美しい響きやハーモニーが生まれることを少しずつ実感している子供達だが、自分のパートの演奏に一生懸命になってしまい、異なるパートの音をよく聴きながら全体の調和やバランスをとることには難しさを感じている児童が多い。自分自身の声や音の出し方・響きを見つめなおし、異なるパートとの音の重なりや響き合いをよく聴き合いながら合唱・合奏することの楽しさを実感することを目指し、本題材を設定した。

4. 題材について

①教科から見た特性

本題材では「一緒に演奏している仲間や相手の音をよく聴く」という、音楽活動を行う上で最も基本的で大切な姿を目指している。多くの児童は、「音を出すことは楽しい」「音を合わせて演奏することは楽しい」と感じているが、相手や仲間、周りの音をよく聴くことによってよりよい音楽が生まれるという意識はまだ少ないと感じる。4年生という発達段階を踏まえた上で、音の重なりをよく聴き合い、響きを感じ取りながら良い演奏を目指すことがこれから先より豊かな音楽活動につながると考える。

この題材を設定することにより、仲間と音を合わせて演奏することを楽しむには「音をよく聴き合うことが大切である」という実感を持たせ、「音を聴く力」を育みたい。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

本題材では「音の重なり」を聴き合い感じ取るという音楽活動を通して音の重なりの方の良さや美しさを味わうことをねらいとしているが、このような活動そのものが「感性・表現・創造の力」を育むと考える。2つのパートの音を重ねて合唱をする時、自分の声を自分自身で聴いて感じ取り、相手の声とのバランスを聴きとってより良い方向にコントロールする力は「メタ認知力」の育成につながる。また、仲間と一緒に歌う活動を通して、他者とかかわり、集団の中で自分がどのような声の出し方をしたら良いかを考えながら協働する姿は「協力しあう心」の育成に、より良い響きを目指してくり返し練習する姿は「向上心」の育成につながるものと考えられる。

5. 題材計画と資質・能力を育成する主な手立て（全10時間 本時7／10時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (4時間)	・主旋律と副次的旋律のパートに分かれ、音程や歌詞に気を付けながら歌う。 ・主な旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する。	○向上心 ○メタ認知力	○印象に残った旋律や歌詞に着目させ、どのように歌うかについて思いや意図を持たせる。 ○パートごとに演奏を聴き合い、パートの役割を感じさせる。
第2次 (6時間)	・音の重なりやパート同士のバランスに気を付け、お互いに聴き合いながら合唱や合奏をする。【本時】	○協力しあう心 ○向上心 ○メタ認知力 ○感性・表現・創造の力	○少人数で音を重ねて演奏し、具体的な視点を意識させて聴き合うように促す。

7. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・自分とは異なるパートと自分のパートの歌声の重なりを聴き合い、より美しい音の重なりを目指して歌い方や音のバランスを工夫する。
- ・お互いのパートのかかわりを意識し、仲間と声を重ねる楽しさを感じながら歌う。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 10 分	○声の出し方をつかみ、学習の雰囲気をつくる。 ・「明日の空へ」を2パートに分かれて合唱する。 ○前時までの思い起こしながら本時の課題を明確にする。 ・音程が分からないところがある。 ・ソプラノにつられて歌えない。 ・ハーモニーをきれいにしたい。	◇パートリーダーに課題を発言させ、本時で取り組みたい課題をいくつかにしぼる。(向上心)
声の重なりを聴き合って歌おう		
展開 20 分	○声の響きを意識しながら列ごとに歌ったり聴いたりし、よりよく調和するための改善点を見つける。 ・音程が分からないところがあるから練習したい。 ・同じパートで音がそろっていないからもっとそろえよう。 ・地声だと声がまとまらないから裏声を使おう。 ・ピアノの音に合わせてアルトだけ歌ってみよう。 ○ソプラノとアルトの声のバランスを意識しながら列ごとに歌ったり聴いたりし、よりよく調和するための改善点を見つける。 ・ソプラノが強くてアルトが弱いからバランスをもっと良くした方がいい。 ・つられて自信がなくなるから何回かくり返し練習してしっかり歌えるようにしよう。 ・この列はバランスが良かった。お手本にしよう。 ○もう一度、列ごとに歌い方や音のバランスを工夫しながら聴き合って歌う。 ・さっきよりバランスが良くなった。 ・声がまとまってきて音の重なりがきれい。	◇少人数で音を重ねて歌い、声の響きやまとまり、バランスなどの具体的な視点を意識させて聴き合うように促す。【他のグループの演奏を聴く場面の設定】(感性・表現・創造の力)(メタ認知力) ◆自分の声と友達の声の重なりを聴き、美しい音の重なりを目指して歌い方や音のバランスを工夫しながら歌っている【観察】 ◇自分や友達の歌声に耳を傾けるように声かけし、良いところをほめて表現への意欲を引き出す。(感性・表現・創造の力)(メタ認知力) ◆互いの歌声や伴奏を聴き、音を重ねて歌うよさを味わいながら、声を合わせて歌っている【観察・発表】
結末 5 分	○音の重なりを聴き合いながら、「明日の空へ」を全員で通して2部合唱する。 ・きれいにハモれて気持ちよかった ・自分の音だけじゃなくて違うパートの音も聴きながら歌えるようになってきた。	◇お互いに聴き合いながら今日の仕上げとなる合唱になるように声をかける。(協力し合う心)